

# 景況DIは2期連続で改善、先行きは一転下振れの見通し！

■岡崎市内景況調査結果 (平成29年1～3月の状況と平成29年4～6月の見通し)

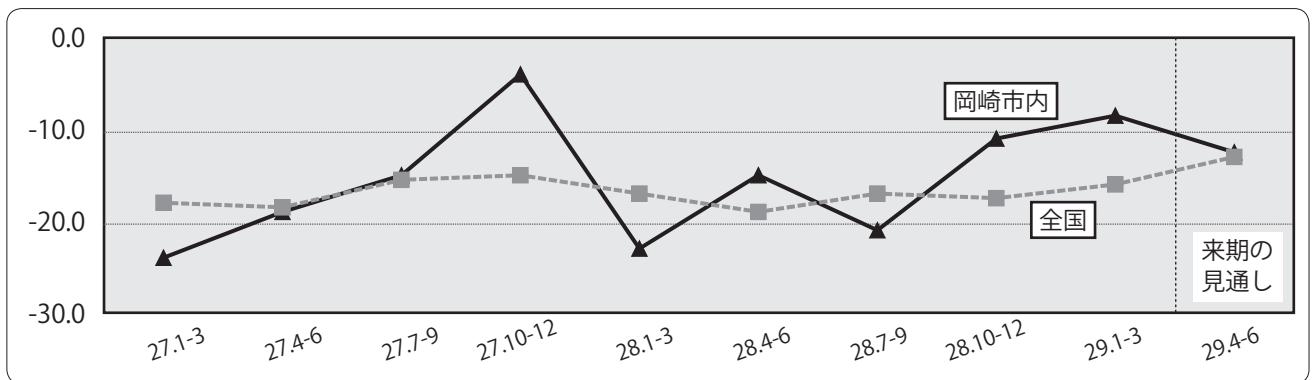
本所では、独自に四半期毎に本調査を実施していますが、平成29年1～3月の全業種の景況DIは、△8.6(前期比2.3ポイント増)で、マイナス領域ながら2期連続で改善傾向となりました。なお、平成29年4～6月の全業種の景況DIは、△13.4(今期比4.8ポイント減)で、業種別の景況DIでも一転、下振れる見通しとなりました。

- 調査対象：本所各部会役員・幹事438事業所
- 有効回答：206事業所(回答率47.0%)
- 調査期間：平成29年4月3日～4月18日
- 調査内容：(1)前年同期(平成28年1～3月)と比べた今期(平成29年1～3月)の状況  
(2)今期と比べた来期(平成29年4～6月)の先行き見通し

業種(対象企業数)	回答企業数	構成比
製造業 (124)	77	37.4%
建設業 (101)	45	21.8%
小売・卸売業 (98)	41	19.9%
サービス業 (115)	43	20.9%
合計 (438)	206	100.0%

## 【全業種景況DIの推移】

※全国平均は、(独)中小企業基盤整備機構が発行する中小企業景況調査報告書より引用



### 【全業種DI】

	前期 (H28.10-12月期)	変化幅	今期 (H29.1-3月期)	変化幅	来期の見通し (H29.4-6月期)
景況	△10.9	↑2.3	△8.6	↓4.8	△13.4
売上額	△7.4	↓4.4	△11.8	↑0.5	△11.3
資金繰り	△0.5	↑1.6	1.1	↓2.2	△1.1
採算(収益)	△11.4	↓0.4	△11.8	↓0.6	△12.4

### 【業種別景況DI】

	前期 (H28.10-12月期)	変化幅	今期 (H29.1-3月期)	変化幅	来期の見通し (H29.4-6月期)
製造業	△6.1	↑1.9	△4.2	↓2.8	△7.0
建設業	△16.3	↑1.3	△15.0	↓7.0	△22.0
小売・卸売業	△14.6	↑3.2	△11.4	↓6.2	△17.6
サービス業	△9.8	↑1.7	△8.1	↓6.6	△14.7

※調査結果の詳細および付帯調査の結果(正社員における平成29年度の給与・賞与)については、本所HPをご覧ください。  
<http://www.okazakicci.or.jp/report/keikyou/29-1-3.pdf>

## 景況ひとくちメモ

### ●国内景気は緩やかな回復基調が続いており、東海地域も緩やかに拡大と判断！

直近(4月)の政府月例経済報告によれば、「景気は、一部に改善の遅れもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。」と発表されました。

また、直近(4月)の日本銀行地域経済報告(さくらレポート)の地域別金融経済概況によれば、「東海地域の景気は、緩やかに拡大している。最終需要の動向をみると、輸出は緩やかに増加している。設備投資は着実に増加を続けている。住宅投資は、振れを伴いつつも、持ち直しの動きが続いている。個人消費は緩やかに持ち直している。この間、公共投資は増加しつつある。こうした中で、生産は緩やかに増加している。また、雇用・所得情勢をみると、労働需給が引き締まっているほか、雇用者所得は改善を続けている。3月短観をみると、企業の業況感は製造業を中心に改善している。企業収益は減益見込みとなっているものの、企業の積極的な設備投資スタンスは維持されている。」と発表、6期連続で“拡大”の表現を継続しました。

岡崎市内の景況は“2期連続で改善”を示したが、賃上げ動向をみると大手企業と中小企業の格差は拡大基調で経済の好循環には至らず、生産年齢人口減少による人手不足問題とともに、地域経済の持続的成長への道のりには不透明感が漂っている。

